

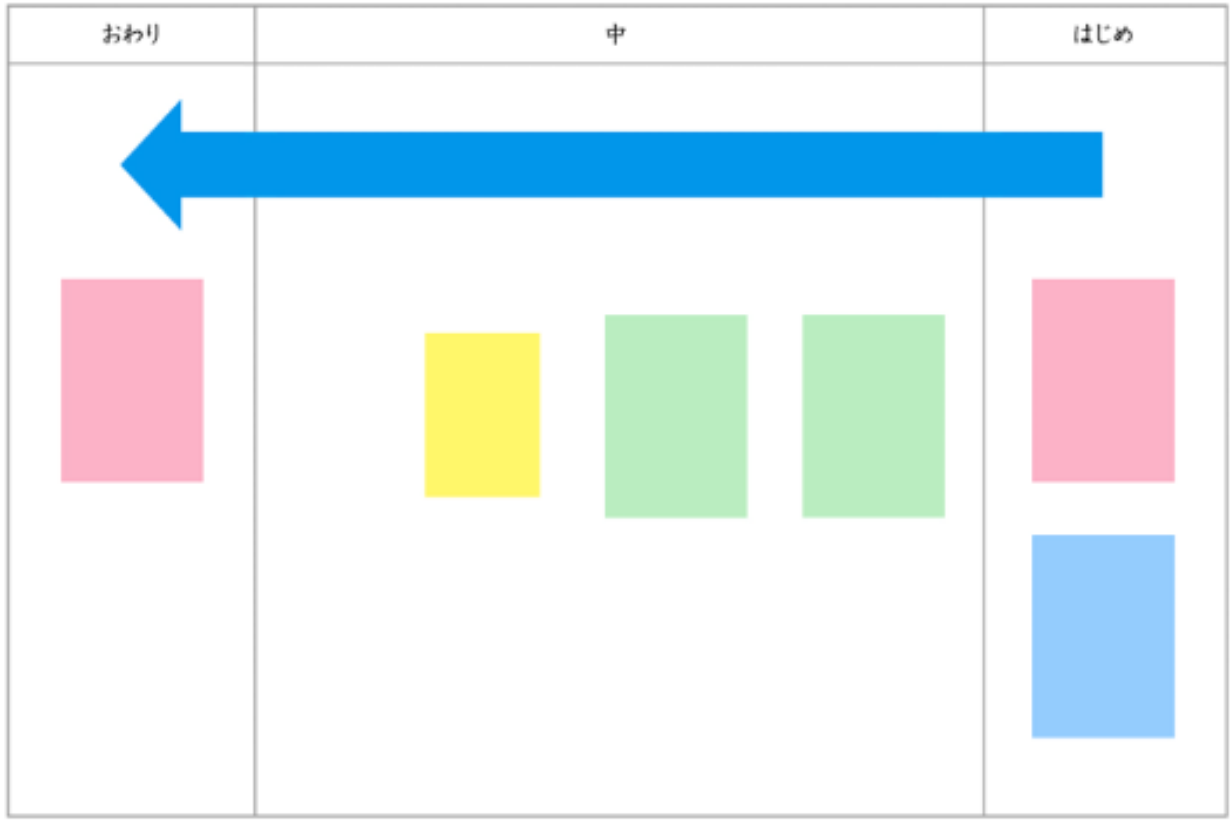
単元名	グラフや表を用いて書こう (SDGs 学習と国語科の交流学习)	5 時間
単元の目標	<p>○情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができる。 (知識・理解 (2) イ)</p> <p>○「書くこと」において、引用したり、図や表を用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思考・判断・表現 B(1)工)</p>	
日本語の目標	<p>① <u>自分の考えの提示・その理由</u> : 「わたしは、～だと思えます。なぜなら、～からです。」等</p> <p>② <u>自分の考えを裏付ける資料 (グラフや表) の提示とその分析・考察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや表の説明 : 「～のグラフは～を表したものです。」「～の表は～を示したものです。」</li> <li>・資料から分かること : 「これを見ると～ことがわかります。」「～と～を比べてみましょう。」</li> <li>・資料から考えられること : 「～ということは、～と思えます。」</li> </ul> <p>「このまま～を続けければ、～な世界に向かっていくことができる (できない) でしょう」</p> <p>③ <u>結論 (行動宣言)</u> : 「このように、(資料を) もとにして、～ということを述べました。」</p> <p>「私たちが～の様に行動を起こす (変える) ことで、～持続可能な世界をつくっていけると思えます。」</p>	
学習課題	<b>資料の効果を考えて、説得力のある意見文を書こう ～自分たちがつくる「持続可能な世界」～</b>	
主な学習活動	<p>【第1次】</p> <p>① SDGs の目標について自分の興味・関心をもった課題について選んで、現状を分析・考察し、解決策や行動宣言などの意見をもつ。</p> <p>「固有種が教えてくれること」の学習を想起し、グラフや表などの資料を効果的に用いて説得力のある意見文を書くという見通しをもつ。 &lt;主体的な学び&gt;</p> <p>【第2次】</p> <p>② 教師が作成した資料やモデルを分析する。自分の意見を裏付ける資料を収集する。</p> <p>③ 集めた資料の情報を色分けしたカードにまとめ、構成や情報をワークシートに整理する。</p> <p>グラフや表などの資料を用いて、意見文の下書きを書く。</p> <p>④ 下書きを推敲し、資料と自分の意見文の整合性について話し合う。 &lt;対話的な学び&gt;</p> <p>【第3次】</p> <p>⑤ 意見文を友達と発表し合い、「説得力ある書き表し方」について振り返る。 &lt;深い学び&gt;</p>	
評価の観点	<p>【知識・理解】</p> <p>情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2) イ)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き方を工夫している。(B(1)工)</p> <p>【主体的に学びに取り組む態度】</p> <p>既習事項を活かして学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、グラフや表を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、粘り強く自分の意見を述べる文章を書こうとしている。</p>	

学習活動計画

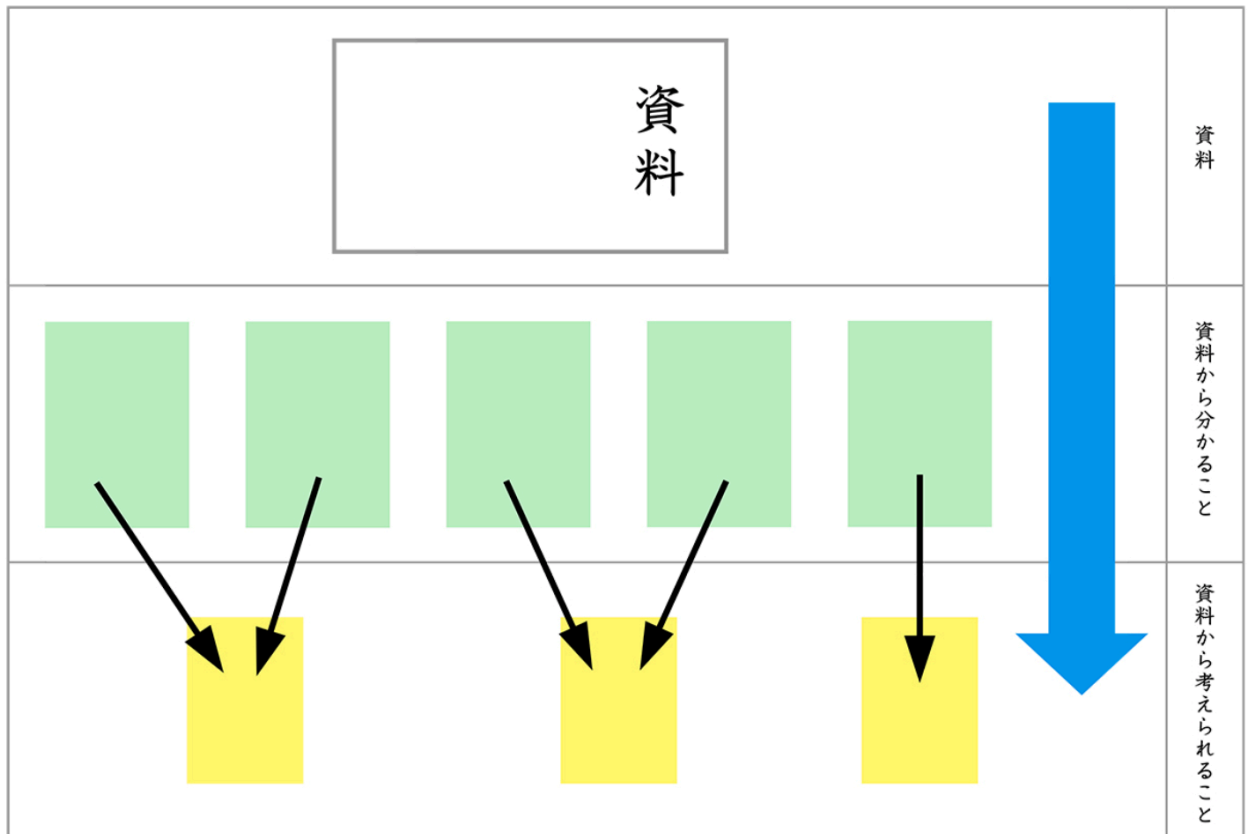
時	内容	活動	ポイント
1	SDGsの目標について興味・関心をもったテーマを選んで、現状を分析・考察し解決策や行動宣言などの意見をもつ。	<b>学習課題</b> <b>資料の効果を考えて、説得力のある意見文を書こう</b> <b>～自分たちがつくる「持続可能な世界」～</b> ① SDGsの17の目標について知り、興味関心をもった目標について調べ、SDGsノートにまとめる。 ② 自身で選んだ課題について、資料を集め情報収集をする。 ③ 京都とロンドンをつなぎ、浅利先生とのオンラインインタビューを通して、さらに学びを深める。 ④ 課題に対する分析・考察し、解決策や「行動宣言」をレポートにまとめる。	・保護者と連携・協力を得て夏休みの課題として、SDGsの調べ学習を開始する。 ・SDGs ノートを作成された京都大学の浅利先生の紹介動画を Google Classroom にて配信し、SDGの目標やノートの活用方法について知る。 ・京都市公立小学校のSDGs学習後のポスターなどの作品や行動宣言を Google Classroom にて共有し今後の活動の見通しをもつ。 ・なぜ自分がその課題を選んだのか、理由を言語化しておく、この後資料を探しやすくなる。
	家庭学習課題	① 夏休みの宿題：SDGs ノートを活用して17の目標について調べる ② 地球環境学堂 浅利先生へのインタビューを考える。(ワークシート 資料1) ③ 調べたことを「SDGs 学習探究レポート(ワークシート資料2)」にまとめる	
2	教師が作成した資料やモデルを分析する。 自分の考えを裏付ける資料を収集する。	<b>めあて</b> <b>モデル文を分析し、どのような資料を集めたら良いか考えよう。</b> <b>資料をあつめよう。</b> ① 教師が作成したモデル文を分析し、児童が文章を書く際のイメージが持てる様にする。 (自分の考えは赤色、その理由は青色、資料からわかることは緑色など、色分けしたラインを引いていく) ① モデル文の構成「初め」「中」「終わり」の内容を捉える。 ② 事実と考えを伝える際の文末表現の違いを確認する。 ③ 資料と文のつながりを分析する。	<構成> <b>初め</b> ：自分の意見・理由 <b>中</b> ：グラフや表を用いて資料の説明 資料から分かること 資料から考えられること <b>終わり</b> ：まとめ→行動宣言 資料の出席 ・自分の考えを裏付けたり、証明したりできる資料を探す。
	家庭学習課題	自分の考えを裏付ける資料を収集する。(本・新聞・インターネット等)	
3	集めた資料の情報を色分けしたカードにまとめ、構成や情報をワークシートに整理する。 グラフや表などの資料を用いて、意見文の下書きを書く。	<b>めあて</b> <b>集めた資料の情報を整理して、資料を用いて意見文の下書きを書こう。</b> ・児童一人一人の学習の状況に応じた活動をする。 ① 資料の情報を整理しようとしている児童 → <u>情報整理シート</u> ② 資料の整理した後 自分の考えと資料とのつながり確かめようとしている児童 構成を考えながら情報を整理し、自分の考えとのつながり確かめようとしている児童 → <u>構成整理シート</u>	・個に応じた活動をするので、児童は自身の活動の見通しをもつ。 ・教師は児童の学習の進捗状況や悩んでいることを把握しておき、適切な声かけや支援をする。 ・資料の言葉や数字に注目させ分析させる。 ・資料から分かる事実とそこから考えられることを書き出し、自分の考えとの整合性について判断する。

	家庭学習課題	情報や構成を整理したワークシートを基にして、グラフや表などの資料を用いて、意見文の下書きを書く。(自分が書いた文章に、 <b>自分の考えは赤色</b> 、 <b>その理由は青色</b> 、 <b>資料から分かることは緑色</b> など色分けしてラインを引いておく。)
4	下書きを推敲し、資料と自分の意見文の整合性について話し合う。	<p><b>めあて</b>  <b>友達と読み合っ下書きを推敲し、選んだ資料と自分の考えのつながりを考え、話し合おう。</b></p> <p>① 2時間目で分析したモデル分から、再確認する。  ・大まかな文章構成  ・文末表現  ・資料と文をつなぐ言葉</p> <p>② 「情報整理シート」や「構成シート」を見直し、色分けしてラインを引いた自分や友達の文章と見比べ、入れたい情報が入っているか。</p> <p>③ 資料と友達の考えの整合性を確かめる。</p>
	家庭学習課題	下書きの文章を再検討し、文章と整合性ある資料を用いて清書する。(話型を書き添えたワークシート)
5	意見文を友達と発表し合い、「説得力ある書き表し方」について振り返る。	<p><b>めあて</b>  <b>友達と意見文を発表し合い、「自分たちでつくる持続可能な世界」について考えを広げたり深めたりし、「説得力ある書き表し方」を振り返ろう。</b></p> <p>① グループ（ブース）に分かれて、書いた意見文を発表し合う。</p> <p>② 聞き手は、3つの視点をもって発表を聞き、コメントを色分けした付箋に記入する。(相互評価)  ・<b>ピンク</b>→内容について (友達の考えに関すること)  ・<b>水色</b>→表現について (文章と資料のつながり)  ・<b>黄色</b>→資料の効果について (考えと資料のつながり)</p> <p>③ 意見文を発表し終わった後は、2つの視点でこの学習を振り返る。(自己評価)  ・情報の整理について  ・文章と資料のつながりについて</p> <p>④ この学習を活かして、これからの学習や生活の中で活かせる場面を考える。</p>

<構成シート> 資料と自分の考えとのつながりを詳しく考えるためのシート



<情報整理シート> 資料の情報を整理するためのシート



## <実践の背景および単元で身につけたい資質・能力>

児童は以前「みんなが過ごしやすい町へ」の単元で、自分たちの住む地域の福祉・共生に関わる問題について調べたことを報告書にまとめる学習をした。しかし、学級の児童の背景として、ロンドンで生まれ育った児童が多い反面、他国で生まれた児童や日本から駐在家庭としてロンドンに住み始めて日が浅い児童などが入り混じっており、生活背景や生い立ちは多様な実態である。そこで、同じ地域や国などのイメージを共有して実地調査した報告書を書き伝え合う学習には、難点もある実態に気付かされた。

本単元「グラフや表を用いて書こう」では、自分の課題の目的にあった資料（グラフや表）を選び、その資料と文章を関連させて、これからの社会について自分の意見を述べる文章を書く。この単元を SDGs の学習と国語科の交流学习として発展的に取り扱うこととした。

実践の背景には、本学年児童の実態から今年度の国語科重点課題として、「①論理的思考力 ②情報を関係付け整理する力 ③コミュニケーション・発信力」の三点が挙げられたこともある。さらに、これから子どもたちが生きる社会は「環境循環型社会・グローバル社会・高度情報化社会・福祉共生社会・企画実践・情報発信社会」と言われている。SDGs の学習を国語科に活かすことは「ロンドンと日本の架け橋」として自己実現を確かにする生き方を目標とする、本学級の子どもたちにとって、大切な資質・能力を伸ばす有意義な取り組みであると考えた。

また、授業者は京都市公立小学校にて、「小学生のための SDGs 学習」を実践しており、その際連携してきた経緯のある「京都大学 大学院地球環境学堂の浅利准教授のプロジェクト」とロンドンの子どもとが、交流学习することが実現可能となった。子どもたちの探究学習には十分な時間を取るために SDGs ノートを活用して、興味・関心のある目標から調べたり、課題に対して取り組んだりすることを、夏休みの宿題とした。その際 SDGs ノートの活用の仕方についての理解深めるためにと、浅利先生自らがロンドンの子ども達のために作成された動画を Google Classroom を通じて配信し、保護者にも理解と協力をいただけるようにした。夏休み中は担任の作成した SDGs ノートをモデルとして配信するほか、子どもたちと同じ SDGs ノートで学習した京都市立安朱小学校の子ども達がまとめた「行動宣言」等も、子ども達や保護者に Google Classroom にアップして共有し紹介することで、今後の学習の見通しがもてた。

さらに、9月16日（土）1校時、オンラインで京都とロンドンを繋ぎ、5年B組児童と浅利先生と SDGs 学習に関する、それぞれの課題や疑問について「インタビュー」を行う交流学习を実施した。子どもたちは、この体験を経て、さらに京都や日本、世界の SDGs に関わる問題や取り組みを知り、今後の調査や学習を深める有意義なプロセスとなった。



夏休みの宿題 SDGs ノート



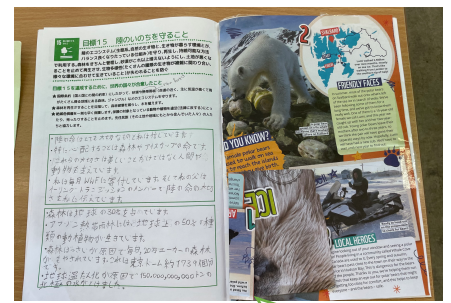
同じ SDGs ノートで学習を終えた京都の子どもたちの作品



Google Classroom で配信した浅利先生の動画

## <主体的な学び> SDGsの目標から課題を自己決定し、見通しをもって自身の学びを調整する

本単元は「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」を「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」で構成される複合教材である。児童は、「固有種が教えてくれること」を読み、資料があるとより説得力が増すことなどを学習している。この学習を活かして、効果的に資料を使って「自分たちでつくる持続可能な世界」についての意見文を書くというゴールへの学習計画を理解し、見通しをもつ。国語力に個人差がある子どもたちの学習においては、保護者との連携を大切に、学校での指導と家庭学習課題としての個人の一人一人が学習を、個に応じて調整しながら自分の計画に基づき進めていくことが大切だと考える。指導の重点となる図表やグラフ等の統計資料の読み取りについては、情報「統計資料の読み方」で指導した上で、朝学習等を利用して常時活動として、様々な統計資料の読み取りを積み重ねた。本単元では、自分の意見と資料の整合性について友達と話し合う活動を通して、自分の意見をさらに明確にし、使いたい資料、その資料から分かることを分析する力をつけさせたい。児童が自分の学習を調整しながら進めていけるように、教師は児童一人一人の進み具合をみて、使えそうな資料を提示したり、資料から分かることの整理の方法を指導したりするなど、個に応じた適切な支援をしていきたい。



夏休みにまとめた子どもたちのSDGsノート

## <対話的な学び> 資料を効果的に活用できているか、資料と自分の意見の整合性を考える

本単元では、自分の意見と資料の整合性について、「資料からどんなことが分かるか」「資料が自分の意見の裏付け、証明となっているか」等の視点もち、友達との話し合いを通して、確認していく。意見を述べる文章を書き始める前に、友達との対話を通して、資料の分析や解釈に対しても客観視することができ、自分の意見と資料の整合性を確認することで、より自信をもって書き始めることができるだろう。また、友達との意見交流や発表を通して、友達がどのような資料を選んだのか、資料をどのように整理したのか、どのように意見と資料を関係付けたのかなど、自身の学習を振り返り、友達の学び方を今後の学習に生かしたりすることにもつながると考える。

## <深い学び> 「自分たちがつくる持続可能な世界」をテーマにした意見文や行動宣言を発表し合い、「説得力のある書き表し方」の工夫について振り返る

単元のゴールでは、資料を用いた意見文を発表し合い、自分の考えや裏付けとなる資料を比較し、相違点や共通点を考える。どのような言葉を使うと「資料と考えのつながり」を説明できるのか、どのような言葉を使うと「より説得力をもたせられたのか」など振り返り、今後の学習や生活に生かしていく見通しももたせたい。また、資料を効果的に活用し意見文を書く学習を通して、子どもたちは論理的思考力・情報整理能力・コミュニケーション力・発信力を伸ばすことができるだろう。「自分たちがつくる持続可能な世界」という大きなテーマで意見文を書くという目的もち、それぞれが興味を持った世界の問題や現状への取り組みなどを調べ、浅利先生や友達とのSDGsの交流学習も通して、自身の視野を広げることができただろう。さらに、自分が伝えたい「行動宣言」を考え発信することで、今後世界の様々な問題を自分の生活に結びつけて考え、課題解決に対して身近なところから探究し行動できる、子どもたちの自己実現力を育みたい。